際置いたのである。

**ヤマザキ　山崎**　今金澤の内に屬する舊地名。三宮古記水引神人の條に、『山崎・凹市紺一』と見え、白山宮莊嚴講中記錄享祿四年十月の條に、『能登・越中衆陣は大田、當國衆陣は山崎・窪市也』ともある。石浦神社所藏慶長十一年の文書に、石浦郷内七ヶ村の一として山崎村があるのも之に同じく、金澤城から小立野なる山崎地方の遺稱を存する附近に至る間が、往古の山崎村の區域であつたのであらう。越登賀三州志に、山崎庄は金澤小立野の出羽町附近で、今の典力町は之に關らぬとし、博伽雜談には金澤城から小立野經王寺邊までを山崎郷がとするが、それは庄でも郷でもなく、山崎村とするのが正しいやうである。

**ヤマザキ　山崎**　能美郡大杉の内の小字。

**ヤマザキ　山崎**　羽咋郡押水中庄に屬する部落。

**ヤマザキ　山崎**　鹿島郡大呑郷に屬する部落。土方雄久が能登一萬石を領した時、この村に陣屋を設けて代官を駐在せしめた。

**ヤマザキ　山崎**　鹿島郡鵜浦の内の小字。

**ヤマザキアキタダ　山崎顯忠**　通稱宇兵衛・與兵衛。享保七年父傳左衛門の遺知二百石を受け、後預玄院附御用人から、寶曆九年同御附物頭並に至り、明和二年百石を加へて三百石を領し、三年十月八日七十六歳を以て歿した。

**ヤマザキウンザン　山崎雲山**　羽咋郡瀧の人。通稱瀧吉、諱は吉、字は元祥、一字伯元、雲山・文軒・石洞陳人又は雪芙蓉道人と號する。幼より畫を好み、常に居村の海岸なる龜岩の上に座して風光を賞し、家に歸ることを忘れた。故に少時の畫印に龜岩瀧吉と刻したものがある。後京師に遊び、賴山陽・貫名海屋・野呂介石等と交り、次いで諸所に流浪し、復京師に赴き、久しからずして歿した。時に天保八年九月十九日、齡六十七。この畫論に秉燭談がある。

**ヤマザキカイホウ　山崎海峰**　羽咋郡瀧の畫家。山崎雲山の養子であらう。通稱達二郎であるから、その住地と併せて瀧達とも記し、字を叔聞ともいうた。雪峰は海峰の後の號である。

**ヤマザキキザエモン　山崎喜左衛門**　初めて前田利長に仕へて三百石を領した。子孫藩に世襲する。

**ヤマザキキユウベエ　山崎久兵衛**　初め織田長孝の臣であつたが、後前田利常に仕へて二百石を領し、延寶八年に歿した。子孫五代茂兵衛永保二百石を領し、出銀奉行を勤めたが、文政十一年三月閉門を命ぜられ、八月八日歿して家斷絶した。

**ヤマザキジガタ　山崎地方**　石川郡石浦庄に屬する無家の地で、古昔山崎村と稱する大邑があつたが、後多く城下に屬してその一部の殘つたものである。明曆三年二月十日附村御印に、『加州石川郡山崎領村、一ヶ村草高四十五石、免四ッ五歩』とあるもの卽ち是である。後單に山崎領又は山崎地方といひ、明治中に至り、山崎地方を獨立の部落として取扱はれることになつた。

**ヤマザキシヤ　山崎社**　鹿島郡山崎に鎭座する。能登誌に、或は神名帳の宿那彦像石神社といふが詳かでない。一說に阿良加志比古神社であるといふとも記する。今は阿良加志比古神社と稱する。

**ヤマザキジロベエ　山崎次郎兵衛**　五郎右衛門の子。祿四百五十石。持筒足輕頭を勤め。慶長五年八月大聖寺城攻擊の際奮戰して功があつた。寬永十二年歿。

**ヤマザキジンベエ　山崎甚兵衛**　大聖寺藩祖前田利治が分封した時、配屬せられた從臣で、祿百五十石。中條流の劍術を能くした。

**ヤマザキタカユキ　山崎孝之**　通稱傳太郎。字は子修、號は廬舟。山崎才三郎有濟の長子で奇童の稱があつた。十一歳藩主の前で書を講じ、十二歳父を喪うて和漢洋の學を修め、後屢藩政に就いて論議する所であり、北越平定の後村上藩權判事等に任じ、六年十二月歿した。享年三十四。

**ヤマザキチヨウ　山崎町**　金澤の舊町名。山崎村の舊地であつたからの名で、後の石引町であらう。この山崎町を殿町附近であるとする說は、文政四年に坊間の傳說によつて、山之小路を一時山崎町と改めた誤から起つたものである。

**ヤマザキナガアキラ　山崎長鏡**　通稱美濃・庄兵衛。實は青山豐後長次の二子で、山崎長門長德に養はれ、長德の初諱長鏡を襲名したもの。義父の歿後その致仕料二千石を受け、後大聖寺藩に仕へて二千七百石に至つた。この長鏡を一代で絶えた如く記するものあるは理由を明らかにせぬが、後に大聖寺藩の家老であつた山崎權丞がその子孫であることは確かな事實である。

**ヤマザキナガアリ　山崎長有**　通稱久兵衛・小右衛門。長門長德の從弟作右衛門政有の子。長德に屬して大坂再役に從ひ、岡山で兩度槍を合はせ、銀五枚・帷子一を賜はつた。後寬永八年五百石を受けて藩臣となり、足輕頭に任じ、十五年前田光高から松平伊豆守信綱の戰勞を慰する爲肥前島原に遣はされ、慶安二年先筒頭に進み、翌年五百石を加へ、萬治二年御鎗奉行となり、寬文六年致仕して五十人扶持を受け、七年五月七十九歳を以て歿した。長有人と爲り長身豐肉、肩骨厚くして力數人を兼ね、口訥にして行に敢であつた。子孫世々藩に仕へる。

**ヤマザキナガカタ　山崎長質**　通稱庄兵衛。兵部長治の子。寬文元年遺知四千五百五十石を受け、元祿元年定火消、八年奏者番に任じ、享保十二年四月六十歳を以て歿。長質字を好義といひ、臨皐と號し、學を好んだ。

**ヤマザキナガクニ　山崎長國**　通稱庄兵衛。長門長德の長子。慶長の初前田利長に仕へて新知千石を受け、五年その大聖寺城攻擊に當つて敵將蒔田次郎兵衛を討取つた。九年十二月歿、齡廿四。

**ヤマザキナガサト　山崎長郷**　通稱阿波。長門長德の第二子。前田利長に仕へ、新知千石を受け、慶長五年芳春院夫人の江戸に質となつた時之に從ひ、九年父の退隱した後その祿一萬五千石を襲ぎ、十六年四月九日歿した。年廿六。長郷の室は宇喜多秀家の女で、利長の養うたものであり、その子に狗丸があつたが早世した。

**ヤマザキナガツネ　山崎長常**　通稱市正・長門。後諱を光式と改む。山崎長德の嫡男長國が父に先だちて歿し、二男長郷は家を襲いだ後亦歿したから、三男長常がその祿一萬五千石を受けた。長常十五歳の時、大坂冬陣に